



千代田まちづくり

サポート通信

2005年3月発行

No.12

編集・発行 (財)千代田区街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクエア4階
TEL.03-3233-7555 FAX.03-3233-7557

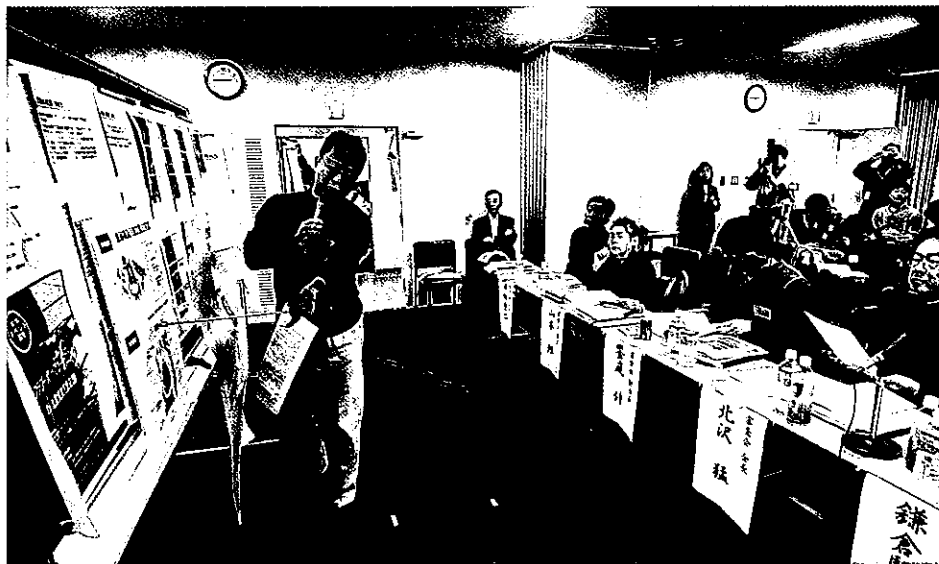
公社ホームページ <http://www.chiyoda-machidukuri.or.jp>

E-mail:kosha@chiyoda-machidukuri.or.jp

ますます濃い活動内容が政策提案に発展

***** 62回のイベントの実施など成果を発表「第6回活動成果発表会」*****

市民の市民による市民のための「わがまち」を創るための活動がすっかり定着して、千代田区へ提言ができるまでに育ちつつある「千代田まちづくりサポート」の6回目の活動成果発表会(財団法人千代田区街づくり推進公社主催)が2004年11月21日、ちよだプラットフォームスクエアで開かれ、助成を得ている17団体が1年間の活動成果を報告をした。商店を一軒ずつ訪ねて話を聞いたり、1年間に62回のワークショップを開いて1000人以上の参加者を得るグループもあり、上々の成果に多くの発表者の顔は高揚していた。中でも「子どもと一緒にデザインしよう会」など3グループにサポート大賞が贈られた。(8ページ参照)



豊富な資料を示して課題を報告するグループが多かった

〔審査委員=敬称略〕

会長 北沢 猛
(東京大学助教授)
副会長 饗庭 伸
(東京都立大学助手)
委員 鎌倉 賢司
(東京電力株式会社
エネルギー営業部長)
田畑 秀二
(江都天下祭研究会神田倶楽部代表)
山崎 範子
(地域誌編集人)
山本 坦
(千代田区コミュニティ振興公社評議員)
座間 充
(千代田区まちづくり推進部長)



市民とのかかわりぶりも見逃さない審査委員

助成を受けて初年度の7団体(うち「千代田区民音楽協会」は欠席し6月予定の公開審査会で報告)の中で「若き日の歌・校歌の旅人」は、区内の学校の校歌集をまとめ、地域の歴史を偲ばせる成果をあげ、サポート大賞を受賞した。次年度に文化の掘り起こしが期待された。

独自に活動するグループが多い中で「文化発掘隊」や「ちよだ絵本づくりネット」などは、同じまちづくりサポート活動をする他の団体と協働して深みのある成果を得て「目標が達成できた」と報告。地域住民や商店街だけではなく、大学、企業の援助を取り付けたグループもあり、報告を聞く人々を引き付けた。

この活動は6年目を迎えて、審査委員から「各団体が目指すプランと、それをまとめる人材は区の財産だ。区の政策提案制度を効果的に利用してこのノウハウや人材を活用してほしい」という声上がり、今後の活動団体を後押しした。

発表団体目次 (カッコ内ページ)

- | | | | |
|--------------------|-----|------------------|--------|
| ◎REN-LAB.(レンラボ) | (2) | ◎神田神保町本やの会 | (6) |
| ◎若き日の歌・校歌の旅人 | (2) | ◎東京を自転車でする会 | (6) |
| ◎人が愉しめる道研究会 | (2) | ◎千代田区こども110番連絡会 | (7) |
| ◎まちづくり神田寄席実行委員会準備会 | (3) | ◎五十通り名店会 | (7) |
| ◎文化発掘隊 | (3) | ◎神田市場研究会 | (7) |
| ◎ちよだ絵本づくりネット | (3) | ◎子どもと一緒にデザインしよう会 | (8) |
| ◎ACIプロジェクト | (4) | ◎サポート大賞受賞団体 | (8) |
| ◎さぼてん | (4) | ◎eコミュニティプラットフォーム | (8) |
| ◎神田アキナイ会 | (5) | 〔審査委員会総評・講評〕 | (9~11) |
| ◎岩本町1丁目街づくりネットワーク | (5) | 〔街づくり推進公社組織替え〕 | (12) |
| ◎市井人・斎藤月峯に学ぶ会 | (5) | 〔街づくり推進公社賛助会員一覧〕 | (12) |

(発表順)

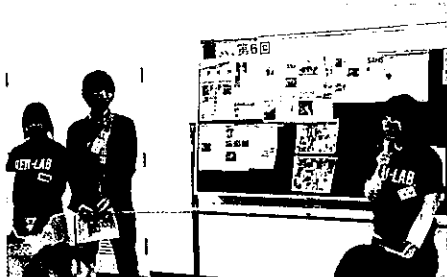
有志学生ネットワークが神田に活力戻す

REN-LAB. (レンラボ)【1年目】

私たちは神田の職人さんに学生が一日体験入門するワークショップを企画し、実施した。1年間で、その他にも様々な活動ができた。ワークショップは和菓子作り、ボタン染め、組紐などの職人さんを訪ねて開いた。ボタン染め、組紐は一般参加の募集もして行った。

また組紐の歴史と現状を聞かせてもらい、色の組み合わせの珍しい見本帳を見せてもらったりした。参加者も興味をもってくれたので、地域に馴染みのない若者にも、これからも神田のまちや職人さんたちの魅力を伝えていきたい。

次に「テツチュウプロジェクト」は、築50



年の元工場の建物を借り、自分たちで改修して、住居にもし、活動拠点とした。この拠点「テツチュウ」でイベントを開き、多くの若者を呼びかけとなった。

また、地元和泉町の町会に入り、夏祭や縁日、体育大会などに参加。神田消防団にも

入団して、地域の中で積極的に活動している。

更に、路上喫煙禁止運動は、禁煙サインをデザインした赤いTシャツを着て、早朝の秋葉原駅前前で吸殻を拾う活動を行った。築研掘商店街には、依頼により、歴史ある「築研」のシンボルマークをデザインして提案した。

このような活動により、外部の若者がレンラボに興味をもって来てくれて、仲間を増やしていけたらと思う。

Q：幅広く活動したようだが、一方で、地元の職人さんとの具体的な接点を更に持ち、新しい物をデザインして創りだすような可能性を求めてほしい。

A：職人さんの仕事の良さを若者も判るし、また実際にユニホームの問屋さんからシャツをデザインして欲しいとか、看板を描いて欲しいとの依頼もあった。積極的に対応し、実現していきたい。

千代田区立学校の校歌を後世へ伝える

若き日の歌・校歌の旅人【1年目】

私たちは千代田区の学校の「校歌集」をまとめて、それを歴史に残し、広める活動をしてきた。今日は紙芝居を使って活動の成果を発表する。

まず文化発掘隊のイベントに参加し、「校歌集」(先行限定型30部や簡易版)のPRをして、同時に校歌に関する新しい資料の提供を呼びかけた。実際の新しい「校歌集」には、校歌や学校の歴史や変革、更に戦前にまで逆上って、当時のことなどが盛り込まれていく。

番町小学校を除き、幸い全区立小中学校の校歌伴奏譜を入手できた。これにより、校歌を再現して歌うことも可能にな

った。今後、様々な音楽団体と連携し、校歌を声高らかに歌えるような、明るい町にするための努力を続ける。

今後は校歌を歌ったテープ集やイベント「校歌祭」の企画実現を目指して活動する。そして校歌の持つ文化を、千代田区から発信していきたい。

Q：校歌には作詞作曲など文化的背景もある。地域の文化を掘り起こし、地域に知らせることは、統廃合で学校が減っていく中で、大切なことだと評価している。ユニークな活動を更に続けてほしい。

Q：かつて校歌を歌っていた人たちからの連絡や情報はあるのか？



A：これから、昔の同窓会や音楽の先生などと連絡をとって呼びかけていく。

Q：最も活動の障害になったことは、何か具体的にがあるか？

A：番町小学校の場合、昔のものと今の2つの校歌がある。中田喜直作曲の新しい譜面はもらえたが、伴奏譜はもらえなかった。昔は音楽の先生が即興で伴奏したり、伴奏譜が無い場合もあったようだ。無いものはもらいようがないので困っている。

都市計画道路放射27号線の道づくり研究

人が愉しめる道研究会【1年目】



今年の活動は、まず沿道の住民とコミュニケーションを深めること。勉強会を開いて知識を蓄えることであった。内部で企画、実施し、反省会を重ねた。また他のサポートのグループとの交流会を持ち、情報の交換をした。計画道路の沿道の住民にはアンケートを行った。

たまたま地域にワンルームマンションの計画があり、その反対運動も起きている。そこででの出会いから新会員が生まれたのはうれしい。

講演会を開いて、この地区の過去と現在を学んだり、樹木医と一緒にストリートウォッチングをして、道の使用状況と緑の調査をした。

今後の活動としては、将来の計画道路の具体的な提案をしていきたい。幸い、この地域に現在もある緑の多い道路の空間を少しでも繋げて、歩行者にとって安全と潤いのある道を実現するように、05年度もできることからやっていきたい。

Q：具体的に各場所について提案しているのか？

A：イトーヨーカドー本部の前の空気をオープンカフェにできないか。日本テレビが移転して駐車場になっているが、「いきいきプラザ」への道を拓けることはできないか、

など交渉しながら進める。

また新築マンションには樹木を植える提案もしたい。

Q: アンケートの反響は? また、もっと多くの会員が集まる企画はできないだろうか。

A: アンケートの75% 110人の回答で、人が安心して歩けるように、一方通行のまま自転車道路や歩道を人々が望んでいることが判った。できることから、小人数で始める。

Q: 通りに都市計画学会の本部がある

ので、その専門家たちに声をかけ、ぜひ協力や教えるを受けると思う。

A: アドバイスを参考にします。

神田に「笑い」の賑わいを復活する

まちづくり神田寄席実行委員会準備会【1年目】

第1回「雛祭り興行」、第2回「七夕興行」と開催してきた。第3回神田寄席は開催予定の会場「神田SU」が閉鎖となり、悩んだ末に、「菊祭興行」として新橋の炬燵た亭で開いた(11月)。10月の予定だったが思わぬ台風で延期となった結果だ。

05年は、以前から活動している皇居周回ランニングの参加者にも呼びかけて、神田寄席を実施したい。特に元気な主婦を対象にする。そして、千代田区のNPO・ボランティアとの協働で政策提案制度に応募して、都市観光事業の活動として展開していきたい。

また出し物も落語に限らず、中高年を魅

了するシャンソンを予定している。

この活動が実現すれば、皇居周回の市民歩行者と神田地区の住民を融合する場として、「まちづくり神田寄席」を運営することができる。

Q: すると次回のサポートは不参加という意味か?

A: はい、NPOとの協働でやる。

Q: 区内の銭湯などで、寄席はできないのか?

A: 銭湯でやるとなると、銭湯の開く午後3時前になるので時間的に難しい。

Q: しつこいようだが、銭湯の休日にはできないのか?



A: 一応、シャンソン歌手を招き、すでに内幸町ホールでファッショナブルに開く予定になっている。

Q: まちづくりの活動としての成果はどうだったか、感想を聞かせてほしい。

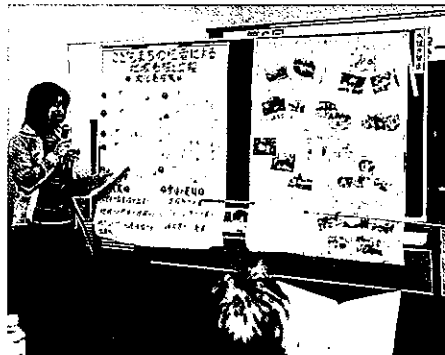
A: 地域の人や要望に合わせて活動した時期もあったが、今後は、地元の人に限らず広く活動していきたいと考えている。しかし、このサポートのおかげでテレビ東京の番組で放映されたり、グループ間の交流や人的ネットワークができた。

こども「まちの記者」による地域発掘と広報

文化発掘隊【1年目】

7月3日に子ども記者の募集と記事の書き方などのオリエンテーションを「こどもまちの記者になろう」として実施。そのためのポスターやチラシを作成して配付した。更に「お友達になろう」というワークショップを実施した。

夏休みの8月5日には第1回「緑のひみつ」を環境をテーマに開く。三井住友海上の協力で、環境問題、屋上緑化について取材。15～17日は第2回「あそびがいっぱい」。サンケイビルの協力で大手町で開かれた子どもイベントを取材し、「こどもまちの記者」のブースも出展した。24日に第3回「国会議事堂にいこう」で、見学と議員の取材。26日は、第4回「千代田区長に会



おう」で千代田区役所に取材。30日は第5回「夏休みこども祭り」を遊びながら取材する。

10月はまず「本を知ろう」で製本や古書展を取材し、「神保町本やの会」の協力

で児童書専門店も取材。17日の「学園祭に乱入」では共立女子大学の学園祭を取材させていただく。次に、「まちを歩こう」で「さぼてん・ウォーク」に同行取材。取材後に記事を書き、文化発掘隊のWeb及び「千代田わくわくタイムス」として公開。基本的な修正、訂正はしたが、子どもたちが書いた。

予想に反し低学年の子どもたちが主体となったため一部活動の修正はあったが、想像以上に力を発揮してくれた。子どもたちの活動が多くの方から賛同を得て、企業の理解も得られた。

Q: 千代田広報に子どものコメントを載せてはどうか? とても記事がよかった。

A: 区役所ロビーを借りて展示を行う予定、「エコプロダクツ2004」でも発表。

Q: タイムスの部数は? 広めてほしい。

A: 1500部で、印刷途中だが学園祭などにも展示する。

手づくり絵本で「家族の和＝輪」をつくろう!

ちよだ絵本づくりネット【1年目】

まず「春休み親子かんたん絵本講座」を開いて、同じサイズのものを各自で創っ

た。次に、「夏休み宿題・自由研究を一冊にまとめてみよう!」講座を主催。子ども

たちが持ち寄ったものを内容に応じてそれぞれ手づくり絵本にした。

11月には「手づくり絵本展」や「絵本をつかったワークショップ」などを開いた。いずれも大変だったが、世界に1つしかない自分の絵本が出来上がった時の喜びは大きかった。

他に留学生との「おはなしのWA(和と輪)」や声楽家・絵本作家の名倉名知子さんの「おはなしコンサート」、児童文学者・岩崎京子さんの「素語りとトーク」などを行った。

予想以上に会場の確保や準備などが大変だったが、活動を通して「子どもと一緒にデザインしよう会」、「千代田区こども 110番連絡会」、「さぽてん」などのみなさんにはご協力いただき、お蔭で04年の目標はほぼ達成できた。

Q: 今後、発展的活動として、たとえば「カンボジアの子どもたちへ絵本を送る会」



などを参考にしてはどうか。家族の輪から社会へと活動に広がり生まれるのではないだろうか。

Q: 報告書に段取りが大変だったとあるのを見ると、まさに根付いていない気がする。地元とのつながりを深め、区の施設の輪転機も活用するといったと思う。

A: サポートのいくつかのグループとのつながりが持てたので、今後に繋げていきたい。

Q: 千代田らしさ、千代田ならではの活動にしていくと、更に発展していくのではないかなと思うが。

A: 地元の民話を絵本にする活動などをして、区内で核になるメンバーを育てていきたいと考えている。

We Can! "C·A·N" ~Chiyoda·Area·Network~

ACIプロジェクト(Activating Communication in Iidabashi)【2年目】

法政大学の学生30人で飯田橋地域を利用する人々同士の交流を図る活動。2年目の今年は「七夕フラワープレゼント」で笹に短冊などの飾りつけや、制作した情報誌「ダバチズ」を今年度は計3号を配付した。



築土神社祭りや、9月の飯田橋神興渡御、10月の靖国神社千両まつりにもブースを出し、地元の方と交流した。

また「学生まちづくり学会」や「こどもまち記者」のイベントにも参加。留学生との交流企画「Enjoy Walking」を実施した。飯田橋清掃企画「飯田橋クリーンアップ」にも参加。地域のイベントにも参加することで、わがACIの活動が知られ、やりやすくなったと思う。

こうした活動の結果、いままで参加しなかった学生に飯田橋に来てもらう機会が増えた。他の学生団体との交流も図れて、学生たちから地元の人たちとの交流を求める声が多いことが判った。

11月に開く予定の飯田橋商店街振興組合との共催イベント、「元気出せ飯田橋まつり」は間に合わず12月になったが、17日に必ず成功させる。学生サークルによる音楽演奏、ダンスなどの発表や大鍋芋煮会、地元の紹介を兼ねた「東京クイズ」などのステージ企画も開く予定。

Q: 1年目と2年目の活動の違いは何か。3年目はどう展開するのか?

A) 1年目は地域の人たちとの繋がりを創ることで精一杯だった。2年目はそれに基づいて様々な活動ができた。3年目は更に発展させて、学生たちにいろんな機会や発表の場を提供していきたい。

Q: アイガーデンなどの飯田橋のまだ知られていないものを紹介してほしい。

Q: 地域をテーマにした発表に絞ってはどうか。審査会も開いたりして。

A: 3年目には考えていきたいと思う。

ウォークショップ開催&マップ作成

さぽてん【2年目】

サポート活動をサポートしようという「サポーターズクラブ」有志の集まりで、今回6回目の応募の目標は、まず継続してウォークショップを開催する。次に、各団体が創っているマップを重ね合わせて、全体としての地図を創ることだ。

ウォークショップは、各訪問先のサポート団体とルートの設定などを相談してコースを決め、当日もご協力頂いた。今回は番町麴町の約5キロを回るイベントを10月に開催。この記録を冊子にして広く配付する予定でいる。

マップ作りは、様々な情報をどうチョイスして載せるかが問題だと思う。公社よりeコミュニティプラットフォーム(8ページ参

照)を作るという要望があり、それにシフトしてさぽマップはデジタル化した。電子マッピングシステムの使い易い仕組みとなるよう支援していく。

Q: ウォークショップは参加者が増えているのか?

A: 今回は訪問団体が8つと多くなり、距離が長くなって、途中で警察官に職務質問されて驚いた。参加者は毎回30人ほどで数は増えていないが、HPを見た人など新しいメンバーが加わり、交流度は高まったと感じている。

Q: 採算や集客の問題はないか?

A: 人件費を抜けば、なんとか成立する状況だ。しかし民間の会社がこの規模で



やるには困難だと思う。まちづくり団体の紹介という地味で限られた目的なので皮肉にも集客はやはり限られる。量より質の向上を目指したい。

Q: HPを見られない人のためには、何をどうするのか? 地域との連絡や広報の活動が見えない気がするが。

A: 出張所、集会所などにチラシを置くが、町会への直接的なアプローチはない。宣伝は今後の課題かと思う。

東神田 みちを再生、まちを再生

神田アキナイ会【2年目】

04年度は、実際に道がどう使われているかを調べた。もっとまちの中に出かけて活動するはずだったが、不測の事態がおき、調べることに終始してしまった。とにかくまちに出て神田を歩き回り、写真を撮って、地元の方に話を聞いては、おもしろい道の使い方を探した。その結果をまとめたのが「みちへ出よう」マニュアル(仮)である。

道の使われ方をピックアップして、その様子を写真に撮る。たとえばタバコ屋の店先の歩道にはみだした植木とか。そこのおばさんの話も聞いたりして、取材を続けた。課題は、このマニュアルをどう拡げていくか。まちづくりの現場にいきなり届けるかだと思う。

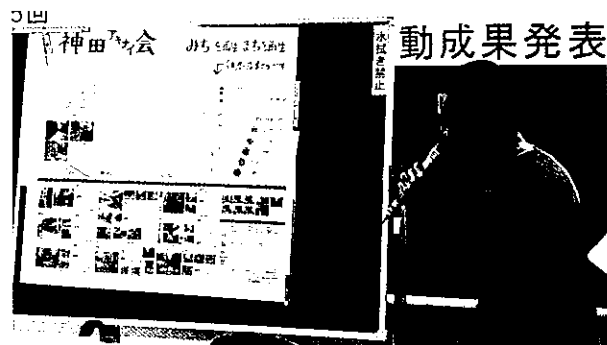
Q：道の使い方には、道路交通法がある。

法律が全てではないが、新しいルールを創る参考になる、道のよい使い方をテーマに活動してほしい。

A：法的背景はかじってみたが、実際にまちの人に聞いてみると、法律は意識されていないようだった。

Q：地元の人にも一般的なルールや、こういう使い方にしてほしいとか意見があったのではないかなと思う。それらをまとめていてもらいたい。

A：ヒヤリングから新しいルールを導き出せばいいのだが、他のグループとも連携がとれず、今回はとてもそこまで至らなかった。



として出してほしい。新たな提案をするとか、今後はもう少し活動の幅を拡げてみて下さい。

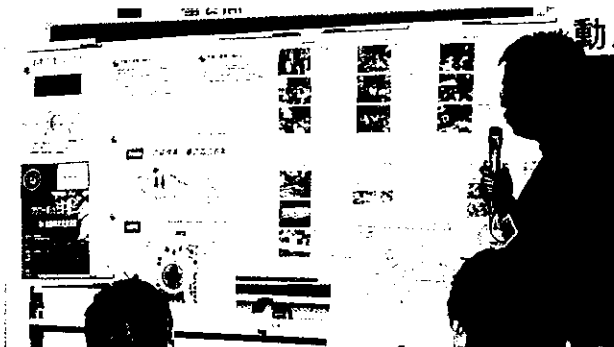
A：ご期待に沿うよう、来年はもっと頑張るつもりだ。

21世紀型地域コミュニティを目指す

岩本町1丁目街づくりネットワーク【2年目】

今回の活動のメインは、9月11日に、第1回のイベント「フラワーポットでガーデニングIN地蔵橋東児童遊園」を開いたこと。石川千代田区長や、1丁目のみならず地域の人々約80人が参加。

その際、サポート団体を通じて公園隣接のマンション「スカイコートヌーベル神田」から水の提供を受け、フラワーポットに水をやることができた。また、連合町会と共に活動ができたので、サポート団体、街公社、地域が三位一体となったために、区の公園課を動かした。以前はゴミ置場だった公園が11月27日、新しく生まれ変わ



わり、植樹祭のイベントも無事行うことができた。

公園の改善案は、このサポートで出会った、都立大学の水島彩子さんに創って頂いた。感謝している。

また、地域のウィークリーマンションの

建設現場にも、イベントで使ったフラワーポットを置いたりして、まちの美化に役立っている。

Q：大きな成果を上げたが、3年目は?

A：3年目は連合町会の中の埋もれているような公園を美化していこうと思う。また企画した歴史の「江戸・明治シンクロプレート」作成を、プロトタイプはできているので、次回は完成させる。

Q：公園の水の確保を働きかけて、ぜひ千代田区のアダプトシステム2号としてやってほしい。

Q：公園の改修工事は当初から計画していたのか?

A：思わぬ展開だった。活動の過程で改善案を出す中で延長上に出てきた。

Q：水島さんもボランティアか? またテント代は予算内で出せたのか?

A：水島さんはボランティア。テントは地元の企業が半額で提供してくれた。いずれも協力なしにはできなかった。

斎藤月岑を顕彰、偉業をまちづくりに

市井人・斎藤月岑に学ぶ会【2年目】

04年は、斎藤月岑生誕200年にあたり顕彰碑を生誕地に建てる活動をし、碑は11月20日完成。除幕式は11月27日に行う。

振り返ると、3月6日の月岑の命日には菩提寺の墓前で127回忌を行った。6月に建設する会を発足して募金活動を始め、同時に7月に北原進氏の講演会をNPO神田学会

と共催した。

また、活動の中で月岑の子孫が見つかった。月岑についての本をお書きになった月岑の孫、斎藤武雄氏(故人)の娘さん一家が横浜の自宅におられ、面会することができた。

募金は、郵便局に口座を開設したり、地元、月岑の生誕地の居酒屋さんにもご協力頂



いて募金箱を設置、100人以上の方から寄せられ、目標額に達した。顕彰碑の石は外堀から出た石垣の石を使用。碑文のタイトルは議論の末、「斎藤月峯居宅跡」とした。碑文の文章は会で案を創り、顕彰碑設置後、碑を寄贈することになる区の担当者の意見を聞いてまとめた。英文の案内文も入れた。

碑の占用許可をめぐり、管理者の都道と調整にあたった関係機関の方々、石の

加工や碑の据え付け工事を受けて下さった神田に本部を置く石材協会など、多くの方々のご協力で実現することができ、深く感謝している。

Q：03年は研究、04年は顕彰碑、今後はどういう展開になるのか？

A：斎藤月峯の著作でまだ翻刻されていない古文書の翻刻作業を本格的に行う。江戸東京博物館のマイクロフィルムから「類聚撰要」(全51巻)本文のコピーをしたり、

準備は進めている。

Q：地域の歴史を掘り下げていくのもサポートの活動だが、それを基に地域との関わりを次の目標にしてはどうか。

A：斎藤月峯の文庫とか、彼の全てが判るようなポイント・スペースを創り、観光も含め、まちづくりとして発展できればと考えている。たとえば通り名などにも月峯の名前をぜひ入れたい。

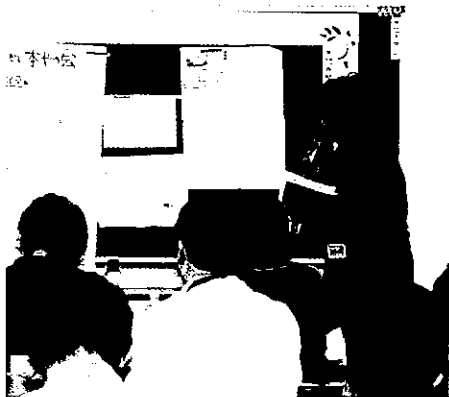
変化激しい神保町の路地裏マップ制作

神田神保町本やの会【2年目】

神保町という本の街だが、最近では集客力が落ちている。そこに働く私たちが5年ほど前に何とかできないかと始めた会である。生活している者の視点でこの街の魅力を来訪者や住民に知らせたいと、路地裏マップを3号まで作った。資金的なことなどで継続できず、中止していたが、去年このサポートに応募して再開しようと動き出した。

しかし、まだ完成していない。お金があるからできるわけではないと痛感した。さて、調査を始めてみると、2、3年の間に街が変わっていて、その情報をマップに載せてみたが、つまらないものになった。なんとか表紙やエッセイを書いて頂き、読み物としておもしろくできないかと悩みながら探ってみた。

ある程度の形はできたが、まだ印刷には



至っていない。一応、まず情報としてのマップを出し、次に読み物としての冊子も出せればとアンケートなどをしてまとめている。期限がきても完成できなかったことを心

苦しく思っている。メンバーが移転などで減ってしまったり、困難な状況は続いているが、たとえ私一人になっても仕上げるつもりでいる。

Q：最初のマップの素朴な良さが、助成を貰うことで、却ってプレッシャーになったのか？むしろ、審査員のコメントにも、何か誤りがあったのではないかと考えてしまった。

A：そんなことはない。街の変貌が予想以上で、そのことを記録したいが、それを盛り込むと、マップとしてつまらない。そのジレンマに苦しんだ。

Q：一説には、神保町にも本屋が増えていくという声もある。新しい人々への働きかけをしてみてもいいか？

A：新しい本屋ができるのは地価が落ちているからだ。その人々へのインタビューは済ませているので、載せるつもりでいる。

Q：状況が厳しいのは判るが、決まりなので、一応05年の1月までには完成させてほしい。

自転車を楽しむためのまちづくり

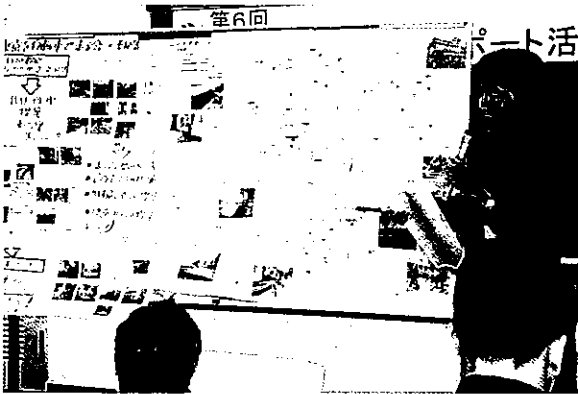
東京を自転車で走る会【2年目】

03年は4つのコースを創り、04年はサイクリングマップとコースガイドを創った。マップは英語版も完成。またコースで走るのに改善すべき提案集を作成した。

まず4つのコースを休日にサイクリングし、現地調査をした。約60箇所の事例を集め、カルテに表し、どう改善すべきかを議論して「提案等事例集」という報告書にまとめた。これを自転車を使ってのまちづくりにぜひ活用してほしい。

まず現在、自転車の走行空間が車道にも歩道にもないので、その作り方についての提案。自転車にとっての道路の危険箇所の指摘。次に駐輪スペースの確保。駅前などの大規模なものより、小さな施設を散りばめて各所に作ることを提案している。

最後に、休憩スペースや表示板を設置す



ること。たとえば、公園の一角にオープンカフェを作るなど。

マップは区内の各所に配付して自転車による観光を広める。提案書は道造りの活動にも活かしてほしい。まちづくりの団体と協

働して、案内人制度なども検討していきたい。

Q：この活動や提案はまさに市民によるまちづくりであると思う。都市計画課に働きかけてはどうか？

Q：区の立場からいうと、道づくりは大きなテーマで、自転車は重要になる。一方、駅前の放置自転車の問題もあり、道路整備の一つとしても提案書はぜひとも活用したい。

A：具体的な提案は3つあるので、よろしくご検討をお願いする。

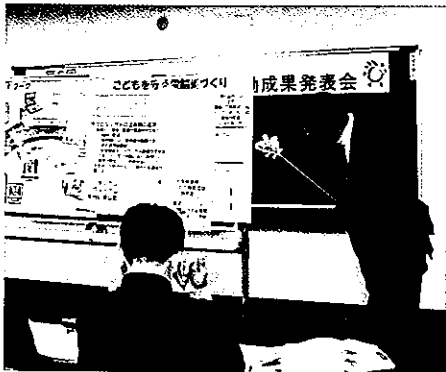
Q：休日や夜間、早朝などは交通量が変わるので、そのへんはどう考えるか？

A：たとえば休日は車が少ないので、車のレーンを一部自転車用にするなどタイムシェアリングの提案をしている。

子どもを守る新システムでまちづくり

千代田区こども 110番連絡会【2年目】

区立小学校8校のPTAから2人ずつのIT委員で2年間で13回のプロジェクト会議を開いてきた。当初は状況のバラツキもあっ



たが、現在ではそれぞれ独自に体制を構築、情報を共有、協力し合うようになった。04年中には全校にIT環境が整い、機材が揃う。

昨年から今年にかけて3回のIT講習会を開き、各学校のHPも整備された。また富士見小学校の協力を得て、連絡会HPと携帯電話双方からリンクできるシステムの実験を始めている。

まずパソコン、携帯電話の普及状況を把握するためのアンケートを実施。「ネットワーク時代の子どもたち」というシンポジウムを2回行った。ITの功罪を知り、考えるという企画で、各方面からご協力頂いた。

また課題であった区内私立校への展開は、

働きかけたが公立とは異なる状況もあり、簡単ではない。情報交換しつつ時間をかけて説明を続ける。来年度は公社のeプラットフォームへの参加協力の方法も考えている。

Q：実験は、いま、どの段階か？

A：少ないが中心的メンバーで行っている。お勤めの方には職場に送るし、緊急度合いのランクによる通信も検討中。

地域のいろんな情報とリンクすることが、子どもを中心としたまちづくりに役立つと思う。それでeプラットフォームへもどう関わるか考えている。

Q：実際の運営を誰がどうするのかを考えるとといけない。事務局とか、資金、労力など、その組み立てを具体的に。

A：運営は、いま中心メンバーを増やして各PTAのOBと現役の保護者の会が活動する。また、11月24日にはフォーラムを開き、家庭での課題として討議していく。

オンリーワンの店づくりと街づくり

五十通り名店会【2年目】

靖国通り連合商店街から50メートルも離れていない小さな五十通りには区の助成もない。この地域の活性化のために、ここに商店会が必要なのか否かを考えて2年間活動している。

サポートOBの「千代田活性化アート活動研究会」の方とどういった商店街を創ればいいのか相談したり、巣鴨の地蔵通り商店街の理事長さんを講師に招き話を聞いた。五十通りにもお稲荷さんがあるので、地域と参拝客との関係や活性化についてまとめて、みなさんに開示した。

まず、通りの名を知ってもらうために合言葉「GO TO GOTOU STREET」を創った。また、この通りに来てくれるように「ご

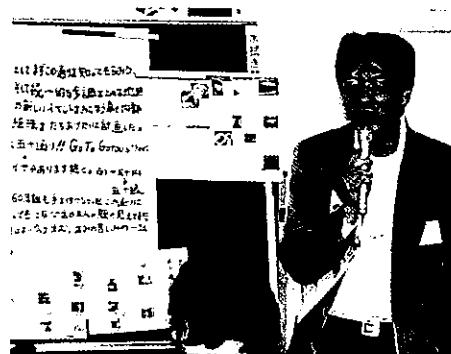
縁が十分あります様にフェア」を開き、各名店舗が50円のサービス券をつけた。

横のデパートである商店街ができればと、地元の「神田ルネッサンス」にも記事にして頂き、『五十通りを歩こう』というカラーの小冊子も300部作った。

しかし、活動はかなり厳しい状況だ。

Q：商店街を盛り上げるというのはサポート事業の原点だが、商店街に区が予算を付けるのは現実には困難だ。住民の地道な努力しかないと思う。

A：小さなお店が03年は18店舗あったが2軒消えて、10軒を冊子に載せているが、オーナーが神田に住むのは1、2軒。それでも1軒ずつ訪ね歩いて話を聞いた。審査委



員の方に励まされたり、冊子が喜ばれたりしてほっとした。

Q：計画のタウン誌と地域通貨が実現しなかった。今後の課題かと思う。

A：サービス券を地域通貨にしたかったが、各店舗には経理上無理だった。冊子に企業広告を載せることも依頼したが実現できなかった。

Q：04は実験の段階。今後仲間と具体的な議論を深めて頑張っていきたい。

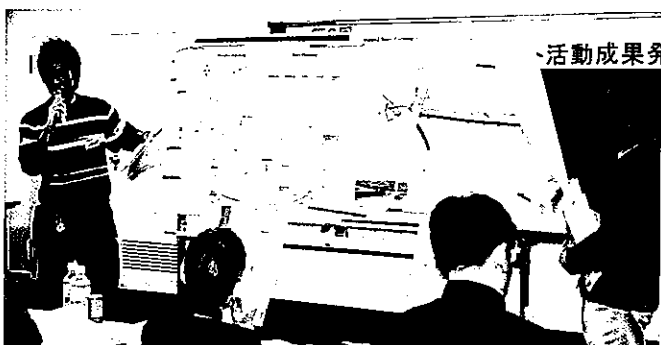
オリジナルスーツを作り柳原通り再生

神田市場研究会【3年目】

前半は会員が実際に神田でスーツを仕立て、地域の産業集積の実態を学びながら、地元の仕立屋さんと交流した。

後半は新規ベンチャー企業や服飾専門学校の先生にヒヤリングを行い、柳原通りの新しいビジョン創りをする。その1つは職人さんの技術を服飾専門学校生や観光旅行者、若者などに教えて頂くというプログラム。

2つ目は企画コンペなどを行い、新しいスーツの生地を使った服などを作る。



更に3つ目として、小さなショップを開く。空き室や高架下の空間をリニューアルして展開していく。

活動の主体は、外部の人間と住民、そして職人さん、この3つのコミュニティが交流す

る新しい運営母体ができないかと考えている。その上に組合やNPO法人などの組織化を図る。

また、区の遊休施設などを活動の拠点に、建物の1階を店舗にして、神田川沿いに開放空間を繋げることはでき

ないかと考えている。サポート卒業後は区の政策提案制度を活用して活動が続けたい。

Q：なぜ地域でスーツを作ったのか？それがどうまちづくりにいかされたかが、大事なポイントではないか。

A：郊外型の安売りスーツ店が地域のス

ーツ産業を脅かしているとのい、それに対抗していくためのアイデアが必要と考え、高価なオーダーメイドの存在理由を探った。

Q：他の職人ワークショップグループとの交流はできないのか？

A：その必要性を感じ、ぜひワークショップも地元でやりたいと思う。

Q：何を地元でやりたいのかもっと明確にして議論しないとだめ。遊休の公共施設を活用するにも、具体的革新的なアイデアがほしい。NPOとか運営の仕組みを考えると共に、指定管理者制度などをビジネスとして使う検討をしてはどうかと思う。

A：今後の活動の参考にします。

地域イベント盛り上げ笑顔のまちづくり

子どもと一緒にデザインしよう会（3年目）

2001年の4月に20人ほどの大学生でボランティア団体を結成し、現在は高校生も含め20～30人で活動している。

今年は、「子どもと共に笑顔広がるまちづくり」をテーマに、まず、富士見小学校で毎月第1、3土曜に小学校デザインコンペやワークショップ、車椅子の障害者とまちを探検した。麹町小学校では毎週土曜午後の校庭開放を他大学生と実施しており、また千代田区の子どもたちと杉並区で交流し、まち探検を行った。

1月神田雪祭りでは親子神田まち歩き。3月の神田祭りは子どもたちの好きな所を絵に描いてワークショップ。7月の神田三町会合同縁日には東洋高校生たちと共にゲームをした。9月、神田多町の路地で都立大学CO-MET・神田館主催のイベントで壁に子どもたちが全身ペイントのアート表現をする。

また児童館活動には四番町、一番町、富

士見各児童館の祭りに参画。西神田児童館で毎週土曜夕方の「中高生ふれあい教室」と8月の「異世代交流会」の隠し芸とお話し会。区内の全児童館で祭りコンテストでアイデア募集。秋葉原の屋上で育てた蕎麦を食べる企画（神田蕎麦の会主催）と蕎麦屋のコンテスト開催。

他に7月は日本建築学会主催のイベントに関わる。10月の靖国神社の千両祭りでは子どもたちの創ったデザインの店を出し、11月には「つながりコンテスト」ポスターの絵を募集した。

また創造をテーマに実践型の「まちデザインキット本」を作成。本日、他会場でコミュニケーション絵本の展覧会を開催中。1頁だけ描き数人でリレーしていくという試みだ。

以上、この1年で20のプログラムを行い、計62回のワークショップやイベントを開き、1000人以上の子どもたちと触れ合ってきた。



最後になるが、神田多町に空き家を改装して活動の拠点ができた。1階は「神田SU」の流木などを引き継ぎ、子どもの基地を造り、2階は会員の住居としてここで、毎月イベントを開催する。ぜひ遊びに来てほしい。

Q：助成終了後はどうするのか？

A：大学からも3年目以降は助成があるが、民間にもあたっている。

Q：多彩な活動の案はどこから出てくるのか？ノウハウを一般化するとすごい。

A：毎週月曜の定例会でアイデアを募り、ディスカッションして決める。

サポート大賞

第6回「千代田まちづくりサポート」活動期間中に、地域にとけ込んだ活動、他グループと協力し、活動の幅を広げたり、他団体の参考となるようなグループに対して「サポート大賞」を設け、さらなる飛躍とサポート事業の活性化につながることを期待して、審査委員全員と各グループの代表者1人、公社代表（今回は出席した副理事長）が各自1票を投票し、高得点だった次の3グループに北沢会長から、表彰状が授与された。また街づくり推進公社より副賞が贈られた。

「子どもと一緒にデザインしよう会」
「若き日の歌・校歌の旅人」
「文化発掘隊」

最後に、受賞団体代表者がスピーチした。「子どもと一緒にデザインしよう会」（代表・星野さん）会を始めて以来、子どもたちと一緒に楽しみたいという思いを貫いて活動を続けたことがよかったと思います。卒業と共に

にこういう賞まで頂けて、とてもうれしいです。

【北沢】実に見事な活動でした。これからも、続けてください。活動の記録が創られ、ノウハウが一般的に残されれば、さらにすばらしいでしょう。

「若き日の歌・校歌の旅人」（代表・直野さん）ぼつぼつやってきたおかげで、こういう賞を頂きました。これからも、ぼつぼつやっていきたいと思います。

【北沢】ほんとにユニークな活動でした。代表者の個性的な人柄も活かしましたね。

「文化発掘隊」（代表・田中さん）実は私はこの賞がとても欲しかったのです。先ほど発表した学生は、いま4年生で卒業なのですが、一生懸命頑張ったので、自分たちの活動が成果を上げたという実感を持って卒業して欲しかったのです。

【北沢】1年目にして、非常に充実した内容でした。ぜひ今後も頑張って下さい。みなさん、おめでとうございます。

eコミュニティプラットフォームとは…

web上の地図に、自由に書き込むことができる情報ツール（web-GIS）です。直接地図に印を入れてコメントを書き込んだり、写真を添付することが可能なので、文字だけの情報とは異なり、どこにどんなものがあるのか伝え、知るリアルさは抜群です。

例えばおいしいお店を発見してみんなに知らせたい時、地図上に印を入れてコメントや画像を添付して紹介することが簡単にできます。また、閲覧した人が書き込まれた内容にコメントする事もでき、情報が一方通行で終わることなくコミュニケーションできます。

勿論特殊なソフトは不要で、汎用のインターネットブラウザがあれば使用できます。

公社では今後、ITを活用した情報ツールとして、eコミュニティプラットフォームを利用し、地域の魅力を発掘、発信する参加型サイトを構築していきます。

会長総評 行政一体で質の高いまちづくり

北沢 猛・審査会会長



私は、この千代田まちづくりサポート事業には、企画段階からですと7年間、関わって参りました。私自身も非常に大きな経験でした。

理屈の上では、可能だと思われ、十分に成り立つのですが、当時、千代田区内のNPOの活動自体どのくらい幅があって、どういうふうに進んでいくのか、ということについては、誰も把握していなかった

たのです。

それに、最初にあまり型をはめてしまうと、おもしろくないわけです。実際、この千代田区に生まれた幅の広い、様々な活動というのは、いい意味で、市民活動の、あるイメージを創ってきたのではないかと思います。それを私たちは体験的に理解できたというわけです。

さて、今回発表していただいた各グループのみなさん、鎌倉賢司委員もおっしゃっていますが、それぞれ皆様、活動の主旨も、その方法も非常に適切であったと思いますし、いい成果があったと思います。

やや活動の方向性を見失ったグループも多少あったかとは思いますが、それはそれでいいと私は思うのです。

いろいろコメントを頂いた中には、審査委員の質が低い、という厳しいものもございました。我々審査委員も百パーセント当たる、完璧ということはない。いわば、やはりこれはある意味でハイリスク、ハイリターンでして、やってみなければ判らないわけです。

最初から結果が決まっているものでしたら、ある程度絞って大当たりしますが、そういうものではないので、ハイリターンばかり狙っていただめなのです。

ですから、みなさんも失敗を恐れずやってみること。それが大切です。ちょっと方向を見失ったといっても、それはまた建て直せばいいわけですから。

それと、みなさんがやられている活動の中で、最初の頃と全く変わってきたのは、会員同士、グループ間の相互のネットワークです。これはとてもよくなって、でき上がってきたと思いました。

また、活動の質とか幅が格段に変わっています。最初の頃にやり始めた「江都天下祭研究会神田倶楽部」の田畑さんたちは結構大変でした。それが次第にいい資料や手本ができて、蓄積になってきたと思います。そういうものをもっと有効に使ってほしいと思っています。

それから、若い人たちが学生さんを中心に自分たちで始めたり、いろんなグループに学生たちが入りだしたりして活動してくれて、非常に次のステップが期待でき、楽しみになってきました。そういう感想を持ちました。

ところで、今回で僕もいなくなってしまう（審査員を退任）ので、言わせてもらいますと、ここまでは、やはり、あくまで最初のステップと言いましょ、第一段階です。ここで活動に対する自分たちの考え方を整理する、そういう段階だと思います。

次のステップというのは、今度、千代田区で政策提案制度とか、新しいアダプト制度とかあります。そういう道もある程度創られていま

すので、市民活動も次のステップへ行く。

また、行政の方ももう少し、工夫をしなければいけない。ここに集まったノウハウや人材を、行政はもっとダイレクトに取り込むような方法を持つこと。提言されたものを検討するというだけではなく、その最初の段階から一緒にやってしまう、という必要があります。そのようにしたほうが、これからのまちづくりは有効だと思います。

たとえば、この中で育った活動、あるいは人材というものはそのまま行政に入れてしまう。ある一定期間でも、2年間なら2年間、自転車なら自転車のプランをやるとすると、そのグループに行政に入ってもらって計画から実行までやってもらう。このサポート事業では、それだけの質が全国的にみても、かなり質の高い活動やグループが育っていると思われます。

ことに、きょう卒業するグループの星野くんたちは、ある意味では今後のまちづくりのスターになると思います。アイドルになるかもしれません。歌が上手いか知りませんが（笑）。

あういう人材を行政に入れて、何年かやってみると、彼にとっても、行政にとっても、メリットがあるはずですよ。ぜひ、試みてほしいと思います。いま千代田区もかなり進んだ仕組みでやっているのは事実ですが、全国的に見れば、どんどん追いついてきてますので、更にもう一歩先の連携のシステムで思い切ったことをやって買いたいと思っています。

最後に、大学で教えているという私の立場上、少し理論的にもう少し整理してみます。

先ほど、経済の活性化とか、伝統産業の再生とかが、大きな課題だというお話がありましたが、当然まちづくりも、あるところまで行くと、それに結びついていかないといけない、と思います。

最近、「ソーシャル・キャピタル」という言葉が非常に注目されています。これまでの経済で大切とされる資本とか労働力とか、そういう要素だけではなく、今後は「社会資本」、つまり市民の関心、活動といったことが、実は経済に非常にプラスに働いている。そういう話が第1ステージであるのです。

そこで「社会資本」といっているものの中身については、いろんな先生が言っているのですが、定義のようなものはないのですが、一つは、参加の意欲が市民にある、個々の市民の力がある。もう一つは、そのネットワークがいかに組めているか。さらに、それらの市民の力やネットワークを支えていく批判精神とか、ルールが創られているか。その3つの要素で、「社会資本」が高いかどうか判断される、というわけです。

恐らく、千代田区のこのサポートは、その「社会資本」がそうとう高い。みなさんのやっている活動が、実は経済の資本を生み出すという単純なものではなく、みなさんの力自体が経済を引っ張っていく。いまや、そういう話になっているというわけです。

以上、そのようなことをお伝えして、6年間の活動の総括といたします。みなさんの活動も、これからますます盛んになっていくでしょうし、私自身も、千代田区には格段の思い入れがありますので、また別の形で関わったり、見守っていきたいと思います。

総評なのか、お別れの挨拶なのか判らなくなりましたが、ともあれ、長い間どうもありがとうございました。

トシステムと活動に



饗庭 伸・副会長

皆様、どうもごくろうさまでした。ご存じかと思いますが、きょうをもちまして、北沢会長が委員を退任されます。つまり、これで、まちづくりサポートの審査会委員が最初の立ち上げから関わったメンバー全てが完全に入れ代わりになるわけです。

それで、街づくり推進公社の方でも、これまでの形というのがありますがこれから来年のサポート事業をどうするかということで、見直しも含めて議論していくところです。

私もこれまで、何度か参加させて頂いて、いくつか思うところがあります。

第1には、千代田まちづくりサポート事業のあたたかい雰囲気というのがあります。また一方で、審査委員とみなさん、みなさん同士の間で、ある緊張感があります。その両方を大事にして、どういうふうに保つかということです。

たまたま、私は他の2つの町で同じような審査委員をやっていますが、凄く緊張しているところと、凄く親しくなってしまうところとがあって、いろいろ経験しております。やはり、ある緊張関係がないと、古い既得権が生まれたり、同じ人が形を変えては助成を受けることになったりして、それが怖いものですから、そうはならないようにと考えているわけです。

このサポートのシステムと活動が今後も広がりを持つことと、このよい形を残していくことと、両方を大切に考えていきたいと思います。

私は、神奈川のNPOまちづくり情報センター・かながわくアリスセンターの理事長をしております。この理事長は任期を2期4年と決められております。まちづくり活動で公社のような大きな組織の理事長や審査委員が替わることはすごく大変なことなのですが、最初の定款を創る時に、我々は、「市民社会の中に既得権益を創らない」ということを前提に明記しておりまして、それで、苦しいけれども、新しい人を迎えてやっているわけです。

その辺のことを考えながら、千代田区ならではのこの活動がますます発展していくことを願っております。

今日はどうも、ありがとうございました。

業後も活動に励



田畑 秀二

皆様、お疲れさまでした。

初めての応募でもサポート大賞を受けたグループもあり、2、3回目となると、まさに横綱相撲状態で、すばらしく発展している会もあります。みなさんの情熱がこうしていてもじわじわと伝わってきて、

とても感動を覚えます。

実は私も、第1回から3回まで助成を受けたグループで「江都神田祭研究会神田倶楽部」の代表をしております、いまでも活動を続けております。

先週の土曜日、江戸フェスティバルにおいて、初めて送り出した本があります。サポート活動のおかげで本をまとめ、出版することもできました。いまでもその活動のなかでやっているわけです。

皆様も、サポート事業の活動を卒業されても、たとえ離れられても、それぞれに活動を続けられて、まちづくりに関わり続けていかれ、様々なところで活躍して頂きたいと思います。

今日は、本当にありがとうございました。

の財産になる活



山本 坦

皆様の活動の発表は、実に申し分なくて、言うことは何もございません。と、申ししても申しませんが(笑)。

だんだん、活動の段階や、それに対する提言などが、千代田区の中にずっと浸透してきていること、そういう活動が、今後久しく、千代田区にとって財産、資産になると思います。これからも、どうぞ、その勢いで活動をお続け頂きたいと思います。

実は、私もいろんな活動をしてありますが、こちらのサポート

事業の審査委員をしておりますので、助成金は頂けません。清水谷公園についての活動で、区の「アダプトシステム」の第1号として活動を続けております。また、外国人のための、「チヨダ・ワールド・クラブ」というのをやっております。

それから、千代田区の地域活性化の実行委員の一人でございます。この間、「さぼてん」には参加し、「わが町人物館」を旧番町出張所で開催しております。また12月の2日に徳川18代当主をお招きして「江戸文化の再生」というテーマで、まちづくりの講演会を開きました。

今日はいろいろありがとうございました。これからも、あえて、頑張れとは言いませんが、どうぞ、手抜きをしないで、活動をお続け下さい。

連携して深みを



鎌倉 賢司

ご苦労さまでございました。

全体的な感想を述べさせていただきます。私は、今回春から初めて審査委員を務めさせて頂きました。審査会、中間報告会、きょうの成果発表会と、1年間お付き合いいたしました。

このサポート活動のグループは、第1回、2回、3回と会を重ねるごとに成長していく、充実する、ということも事実ではございますが、また一方では初回であっても全然違った鋭い切り込み方とか仕事の仕方、活動の基本をしっかりとっていらっしゃるグループもありました。

春に審査会を開いた時に、すごく期待をしたグループ、特に斬

新なアイデアを持っている会、おもしろそうだなと思ったところを、1年間を通して、ずっと見てまいりました。

全般的には非常に期待した以上だったかなと思いました。しかし、やはりテーマによって、温度差があったかと思います。

それと、どなたかのお書きになった原稿の中にありましたが「まちづくりは人づくり」という言葉は、まさにそうだと存じました。最初の企画やアイデアはいいのですが、それをどうやって実際に作り上げていくのか、ということになります。それはそういうことが得意な方、また上手な方がいらっしゃる。それによって、そのグループの活動成果がずいぶんと変わってくるように思われます。

ですから、テーマごとの連携というのもすごく大事ですが、実は、テーマの中で実際に「やっていらっしゃる人」と連携することこそが大切です。ちょっと迷った時とか、アイデアにつまった時などは、そういう個人の人に考え方を聞いてみる。そこでうまくアドバイスを頂くと、結構、行動計画が効率的なものに建て直せるかもしれない、と感じた点がいくつかございました。参考にして頂ければと思いました。

実践結果を政策に



山崎 範子

きょうはありがとうございました。

私は今年、2年目ですが、このサポートの活動はすごくレベルが高い。私も隣の文京区でいくつかの市民活動をしておりますが、ここへ来て皆様のお話を聞くと、毎回のことですが、「あの活動はいいので、ここ

を真似してみよう」とか、「私たちも、もうちょっとこういうふうにやっていこう」とかとても参考になり、勉強になります。

活動をなさっている方たちも、助成を受けている間は、自分の中で、まちづくりのことを勉強している期間だったり、次へと繋げる発酵期間だったりしてもいいと思うのです。しかし、その先が、

更に大事です。

たとえば、今回3年目の「子どもと一緒にデザインしよう会」などは、卒業されるのを見ていて、これだけの実践で創った宝を千代田区の方で、これから使えなかったり、もし政策として捨ててしまったり、利用できなかったら、これは区の大きな損失ではないかと思います。

サポート事業の活動でのまちづくりというのは、みなさんにサポートしてもらっている街公社側というか、区の方が、これからは卒業されたみなさんにもお返ししていく。つまり、これから先も一緒になってやっていけるように、そんなふうになっていけたらすばらしいと思います。

そしたら、ほんとうに注目もされるだろうし、私も、こういう活動、事業が回りの区や私の区でもできないだろうかと、ずっと模索しています。ほんとうにこれからもやっていきたいと思います。

どうも、ありがとうございました。

政策提言者を支援



座間 充

千代田区の座間でございます。いろいろご指摘頂きまして、身に染みる思いでございます。今日はみなさんごくろうさまでございました。発表者のみなさん、今日は1年目から3年目のグループまで、いろいろ

おいででしたが、我々の方といたしましても、いま山崎委員の方からもお話いただきましたように、まちづくりに対するとてもよいヒントを頂いたと思っております。

これまで、行政がいろんな政策を創りながら、まちづくりをやってきましたが、これからは、まちづくりというのは、みなさん市民の方々と一緒にやっていくという時代になっております。そういう中では、みなさん地元の地道なまちづくりに対するいろいろな考え方、それをいかに実際、行政計画の中に反映していけるか。これが課題かなと考えております。

いままでは行政の予算もいろいろありましたが、非常に厳しい状況になっております。それだけに、これからいかにまちづくりに関するアイデア、ソフト的なものをどう活かしていくか、というのが我々千代田区の課題だと存じます。

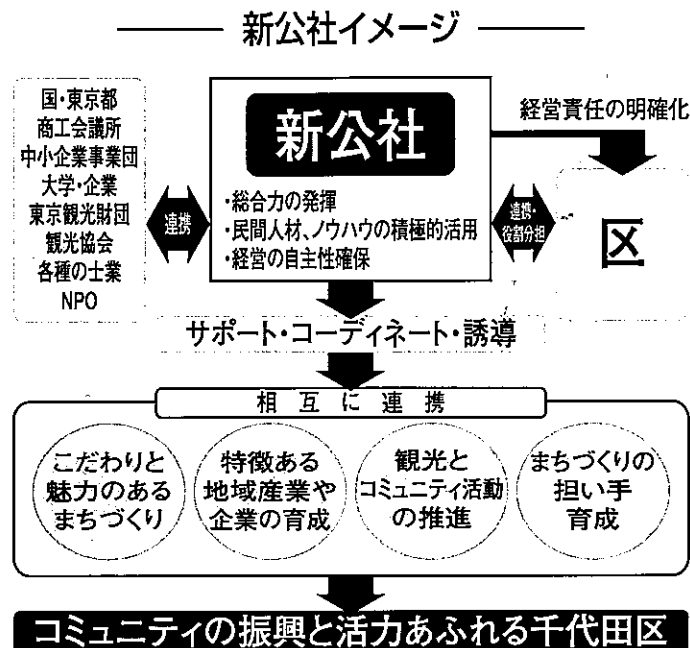
いろんな意味でアイデアをいただきましたが、特に大きな課題である産業振興、先ほども話がありましたがビルの空き室が多くなってきたり、マンションも空いております。観光産業の課題もあります。自転車による観光開発など、新しい行政課題に対していろいろな提案があったようです。

それから道づくりについても、これからの道路は車と人が通ればよいというものではないと考えております。まちのスポットとしても、いかにその空間を活かしていくか、というのが我々の課題だと思っています。そういう意味では、いろいろ、今後、政策提案として頂くような形で、ご協力頂ければ千代田区としても、それに対する支援もできていくと思いますので、みなさんの活動に期待しています。今後ともよろしくお願いいたします。

そして、みなさんにエールを送りたいと思います。どうもお疲れさまでした。

「まちみらい千代田」に生まれ変わ

本年4月より、公社は千代田区コミュニティ振興公社とちよだ中小企業センターと統合し、まちづくり、コミュニティの活性化、産業振興を密接に結合させ、総合的なまちづくり施策を推進する「財団法人まちみらい千代田」としてスタートをきります。まちづくりサポートも、「まちづくりの担い手育成事業」として、これまでの活動を継続し、サポート卒業グループも含め、マッチング等、事業の拡充を図ります。



「(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧」(法人85社・個人69名・計154) 2005年3月1日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています。〈賛助会員募集中〉

賛助会員名簿(法人)

〈保険関係〉

あいおい損害保険(株)
日本興亜損害保険(株)

〈金融関係〉

興産信用金庫
城北信用金庫神田支店
(太陽信用金庫神田支店)
(株)東京都市銀行神田支店
(株)東京三菱銀行
(株)東日本銀行飯田橋支店
みずほ信託銀行(株)
(株)りそな銀行

〈建築・土木関係〉

大木建設(株)
(株)大林組東京本社
大林道路(株)関東支店
鹿島建設(株)東京支店
鹿島道路(株)
(株)久保工
(株)熊谷組首都圏支店
五洋建設(株)
清水建設(株)
(株)銭高組東京支社
大木建設(株)
大成建設(株)
高砂熱学工業(株)東京本店
(株)竹中工務店
中央建設(株)
鉄建建設(株)
東京舗装工業(株)
常磐工業(株)
戸田建設(株)東京支店
飛島建設(株)関東土木支店
ガイアートTK
(飛島道路(株)関東支店)

長野建設(株)東京本社

(株)ナカノフード建設
日東みらい建設(株)
(株)間組東京支店
前田建設工業(株)
真柄建設(株)東京支店
(株)増岡組東京支店
三井建設(株)

〈不動産関係〉

エヌティティ都市開発(株)
協永不動産(株)
(株)共立エステート
住友不動産(株)
大日本企業(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
森トラスト(株)
安田不動産(株)

〈建設設計〉

(株)オール・アイ・イー
(株)アイテック計画
(株)ADプロジェクト
(株)エルイー創造研究所
(株)関東設計
(株)楠山設計
太平工業(株)東京支店
(株)都市環境計画研究所
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)日立建設設計
(株)ポリテック・エイディ
(株)松田平田設計
マト設計・コンサル(株)
(株)ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉

鹿島建物総合管理(株)
東京美化(株)

本州ビル・メインテナンス(株)

〈広告代理業〉

(株)イサミヤ

〈緑花・環境関係〉

日産緑化(株)

〈コンサルタント〉

(株)アーバン・ラフィックエンジニアリング
(株)アフタヌーン・ソサエティ
(株)エコプラン
(株)新都市企画
NPO都市住宅とまちづくり研究会
(株)都市デザインシステム
ランドブレイン(株)
特定非営利活動法人マンション管理支援協議会

〈駐車場管理〉

総合パーキング建設(株)東京支店

〈電機・通信関係〉

三洋電機(株)

〈その他〉

秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
東京高速道路(株)
(社)東京都建築士事務所協会千代田支部
(株)東京読売サービス
フィールファイン(株)
(株)メガ
ヨシモトポール(株)

賛助会員名簿(個人)〔敬称略〕

青木 孝次
安孫子 政夫
安藤 岩三郎

伊澤 優

泉澤 定雄
伊東 敏雄
犬伏 真
今川 守
今堀 信明
扇谷 和米
大熊 伸
角地 登志子
加藤 武夫
木村 進一
小山 政士
佐々木 明美
佐藤 章子
鈴木 勉
須藤 昭雄
瀬川 昌輝
高鍋 龍市
立山 光昭
寺沢 譲
戸田 豊重
中尾 嘉男
二木 憲一
早川 平典
堀部 剛正
松谷 優子
松波 道廣
宮寺 孝臣
三原 久徳
三輪 瑛子
森田 克弥
山内 秀男
山崎 泰廣
脇屋 博幸
渡邊 和
他31名